

光のラインを求めて

曾根のプロムナード

今ではごく当たり前の風景となつた曾根駅前側の「明かり」帰り人や待ち合わせの人々、あるいは散歩の親子やペット連れをそと迎え続け、二十七年。少し前には、スマホ片手に人気キョラクターをゲットしに集まった人たちを見守ったこともありました。毎年八月下旬に行われる曾根サマーフェスティバルや年末に催されたクリスマスツリーにも花を添えていましたね。

そんな、行き交う人々の心に灯りをともして



きた「光」に、存続の危機が訪れようとしていま。ここでは、地域の皆さまに「光のライン」にさらなる関心を寄せていただきたく、曾根駅前の通称「夢の樹ひろば」で「夢の樹とおりに」を彩る光の陰に宿る知られざる物語を紹介いたします。

それはボランティア

皆さん、駅前はずも塵ひとつ落ちていず綺麗ななあと感じたことはありませんか？その担い手は、行政サービスだけではありません。地元有志による毎朝の清掃活動に負うところが大きく、五時半ごろに駅前を通ると、トングとビニル袋を手にした何人かが腰をかめながら道路や歩道のゴミ拾いをされている姿に出会えます。奉仕活動のひとつですね。

「夢の樹ひろば」や「夢の樹とおりに」の「明かり」も、少し趣は異なりますが、実はボランティアといえます。自治体が直接設置されたのでも、メンテナンスされているのでもありません。また、収益事業として行っているわけでもありません。さながら、ジモティーの「ジモティー」による、ジモティーのための「明かり」といえるでしょうか。時計台の噴水に巻きつけられている金色と緑色のLEDや木々にかけられた明るい黄白色の点滅、あるいはクリスマスを盛り上げたであろうピンク色の大きなハートなど、「光のライン構想」を毎年の活動方針として掲げてきた、私も曾根まちづくり研究会(「まち研」と、その全員が当協会会員である駅前商

人会の皆さまの奉仕活動の環です。

最初は一本

歴史を振り返ると「まち研」の前身であるSP(曾根商業プロジェクト：平成二年六月二十七日設立)を立ち上げた翌年の平成三年十二月十日、しまやカメラ(現天苑)前、タンネ(現セツトバック)により曾根駅前ビルディング(前舗道)横に植えられた二本のけやきに、当時地域別にまちづくりの推進を図っていた市の理解を得て、当会として曾根駅前にとつても第一号となるイルミネーションが点灯したのであります。その頃は、鎮状になったLEDでない電球がクリスマスツリーのオーナメントのようにかけられたのですが、それは、明るい犯罪のない街への思いをこめて、曾根駅から市民会館(現豊中市文化芸術センター)までを光のラインで結ぼうといった活動のはじまりでした。

曾根は当時から市の方針によつて、豊中、岡町と並んで都心ゾーン、とりわけ文化、芸術、スポーツゾーンとして位置づけられておりましたが、施設が点在していたこともあつて、SPでは、これらを光のラインで結ぶことを視野に入れた話で盛りあがっていた時でもありました。市民会館、アーク文化ホール、中央公民館に向けて輪のような光のラインが、そして、服部緑地や豊島公園、豊中ローズ球場、あるいは萩の寺公園といったあたりまでも光で結べたら素晴らしいといったような夢を描いていたわけですが、当時から、電球の手入れや電気代は会費で賄っていました。

曾根駅の高架化

曾根駅の高架事業は、般には平成十二年二月二十九日に上線の乗降がともに階上駅となつた時をもつて完成とされていますが、高架下施設タイオがオープンしたのは翌年四月二十五日でした。完成かと思われたのは駅前広場がそのあ

しるこの不幸な事件をバネにして、さらに曾根のため、曾根界隈の生活者のために輝きを増したというの思いが強くなつたと感じました。

輝きを増して

青と白に統された精悍な光が改めて「夢の樹ひろば」と「夢の樹とおりに」に点灯し、行き交う人々の心を優しく支えることになったのち、冬には期間限定のLEDが目見えすることにもなりました。それは、日の落ちるのも早く、寒いさ中、子どもたちの目に、そして心に、温かい灯がともることを願つてのことでした。

冬の「夢の樹ひろば」。老若千人の参加者で賑わう五時間の夏祭り、曾根サマーフェスティバルには規模こそ及びませんが、家族と買い物などにかけた子どもたちに配る三百人分のチョコレートやキャンデーを用意して、ゴスベルあるいはバンドのライブやホットワイン、みかん、あま酒の露店など心と体を温める「時間余り」のホッステージをそこで開催してみることになりました。そして、その広場の駅前道路側の植栽の前にも、いくつかのカラフルなそして楽しい形に設置したLEDがそれです。慌ただしい年末年始のこと。イベント期間だけでなくその前後を通じて、少しでも優しい気持ちになつていただき、事件や事故のない幸せな生活空間実現への一助になつてほしいといった願いからでした。

この冬期間限定のLEDは、予算の関係もあり、レンタル契約でしかご披露できませんでしたが、先般から紹介している商人会とまち研とでまちづくりのひとと役を買わせていただけてきました。契約設置から維持管理まで地元のパラソニアで賄つていました。平成二十八年と十九年の冬には、ピンク色の、高さも幅も背丈大以上あるハート形のLEDが印象的ではなかったでしょうか。仲よさそうなカップルや子どもさんたちの写真をとる姿が多くみられました。

今の「夢の樹ひろば」から「夢の樹とおりに」を照らす「光」は少しおとなしく感じられませんが

変わる広場

そうしたところ、安全や広場の活用を掲げた市への働きかけが実を結んだのか、平成十八年には駅前交差点の「三角州」がなくなり、提案、要望していた、現在のような広く伸びた広場公募にて「夢の樹ひろば」と命名本紙十二号へと改修され、同時に、「二段階式」「三角州」を越え渡る形であった横断歩道も、「二段階式」に直接行き来できる横断歩道へと変貌を遂げたのでした。これにより、歩行者と車との接触事故が防止でき、サマーフェスティバルやクリスマスツリーでは、広くなった「夢の樹ひろば」が有効に使え、皆さまにより楽しんでいただけるようになったのです。

またこの時には、市に提案していた噴水あたりのレイアウト(本紙十号)の部が取り入れられました。噴水から南に続くならかに蛇行した帯は、その水があたかも天の川として流れ出したかのように路上の星として映り、また地上の光のラインそのものでしたので、私たちにとつては望外の喜びともなつたのでした。

さらに、ダイエー前への信号機設置に向けた公安委員会への要望も、安全性や必要性を唱えた妥当性が理解されるタイミングで現実のものとなりました。安全、安心が投げかける明るさと、信号機自体の放つ明るさとが合わさつたこの横断歩道もまた、光のライン構想の所産として捉えたい私たちの気持ちをおまじり点滅させたのでした。

このように、「まち研」の意見も取り入れてい

ただけて、一段と広くなった広場では、噴水で憩う大人や水遊びをする子どもたちの姿が見られるようになりました。加えて、イベントでの利用に厚みや幅が出るようにもなりました。そうして、植樹された木々を目の当たりにするにつけ、件の「光のライン構想」はいやがおうにも盛りあがりを見せるのでした。

機が熟す

壮大な光のラインを意識しながらも、雨々とした歩みに留まっていたかに見えた活動に転機が訪れたのは、改修された広場の誕生した年。将来、曾根駅を象徴すると期待しているドイトウヒがお目見えした時でした。

この樹はヨーロッパ原産、マツ科の常緑針葉高木で、学名:Picea abies。英語名はNorway Spruce、直訳するとノルウェートウヒとなります。樹高は五十m、直径二mにも達し、花期は五月頃。防風林に適している。方で、根張りが強くないために強風で倒れしうことがあるそうです(Wikipediaより)。

ドイトウヒをはじめ、「夢の樹ひろば」そして「夢の樹とおりに」に植樹された木々がLEDで彩られる待ちに待った日がついに訪れたのです。平成十八年。大きく立派に育つてほしいといた願いを込め、ドイトウヒには格別の色。やや値は張りましたが、当初から他の植栽には用いないつもりで、オンリーワンの緑色を供しました。そして、信用金庫はじめ同志第一の店舗前には、信号さながら赤や黄色の光が配されました。一方、「夢の樹とおりに」にはクールな青と白。拳に駅前が明るく、そして華やかになつたと感じていただけたのではないのでしょうか。通勤や買い物に行き交う人々の心を癒し、自ずと曾根駅前だとわかる光景を演出したいといった趣向でしたが、まずは、見る者が楽しめ、曾根はいいな！曾根でよかつたな！と感じていただきたく願つておりました。

それでも、感じ方は千差万別。誰が設置した

のかは公にしていなかったこともあるのですが、歓迎の声に交じつて、「もつと色の統感がほしい」「青と白だけでクールにきめたい」「さつた」といった白や声も聞かれました。「それも悩んだんやがな」「青や白は緑ほどではないしろ、そんなに安くないねんで」「な」とご各々心の中で突っ込みを入れながらも、次回の参考にしようと思つて受け止めて、話し合つていた「まち研」。実際、あとになって、青と白に統されていったことは皆さんのご記憶にも残つていないのでないでしょうか。

それはひとつの事件

さて、悔しいことに、そのような感慨や談笑もそれはとは続きませんでした。ある日、明かりが突然減つたのです。そして、暗くなった光のラインに残された人工的な切断の跡。心ない何者かによつて、LEDが切られたのではないのでしょうか。茫然とし、また憤まん遣るかならない思いで互いに顔を見合はせて、「まち研」メンバー。その明かりを楽しく使わせてくださったいた方々も、事情を知らればきつとごつかりすると同時に憤りを感じてくださったこと、しよつただ、幸いなことに、修理には、その時に加入していた保険が利用できることになりました。ハインレーのハワイに出かけられるような費用が何とか賄える見通しが立ち、新たなLEDの選定を話題にすることができました。希望にあろつた、青色や白色を基調とした「夢の樹ひろば」から「夢の樹とおりに」へと連なる光のラインも検討されました。再発防止の願いを込めて、衣替えが行われてゆきます。

急な出費も保険に助けられる形で光のラインは堅持できるようになりましたが、一方で、保険代のアップと東南アジア旅行程度の免責額の設定を余儀なくされることにもなりました。維持管理の難しさを学ばされる出来事となつたわけですが、それでも、駅前商人会メンバーと当会との光のラインへの熱い思いは冷めることなく、む

さらなる光

「昨年五月十八日に「まち研」の総会が開かれました。それに先立つて行われた役員が集まりの場において冬の期間限定LEDが設置される見通しであること、商人会や「まち研」の予算が厳しく経費計上が容易でなくなつてい、広場と通りで常設化されているLEDも、その劣化、補修に限界が訪れようとしてい、どの見通しが示されました」「まち研」会員であつても、これまでの「光のライン」構想の経緯や成果をよく知らない方がおられるに違いありません。曾根駅前の光を絶やさない努力と協力が望まれる中、自分ごととして曾根のひとつ景観、心の温もりの大切さといったものを自身の内外に声高に叫ぶ資料としてこの記事をお役立て頂ければ幸いです。

稿を終えるにあたり、「まち研」ではいつものことなのですが、誰の功績、私の実績などといった顕彰や自慢とは無縁で、むしろ匿名で汗をかき、時間と浄財を提供するといったことを美德としてきた会つくり、まちづくりであること、翻つて、この活字群の中に称賛に値する個人の名前すら記載できないものかしさをお伝えしておきたいと思つています。そういった想いを繋げて形にするまちづくり、そういった想いが繋がって形になる「まち研」「曾根まちづくり研究会」。光のラインは心のラインでもあるようです。

未来へ

これまで、曾根駅前「夢の樹ひろば」が企画されており、多くの方が足を運び楽しんでいらっしゃいます。これからも、曾根駅前の「夢の樹ひろば」が皆様の憩いの場として活用され、曾根を起点に、豊中市の文化・芸術・スポーツゾーンとなるこの地に居てよかったと思えるようなまちづくりのお手伝いのできたらと願っております。未熟ではありますが、女性の感性を生かした会の運営に務めたいと思っております。今後とも曾根まちづくり研究会に、「ご支援のほど宜しくお願ひ申し上げます。」

今年からは同様にスタートした曾根サマーフェスティバルが、第二十五回を迎えます。皆様、曾根の夏の風物詩として、楽しんでいただけたら幸いです。豊中発祥の高校野球も、夏の甲子園100回記念となり、豊中市でもいろいろなイベントが企画されています。



会長挨拶
—— 曾根まちづくり研究会
会長 **井田 静子**

平素は、曾根まちづくり研究会の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。五月二十六日、平成三十年度曾根まちづくり研究会の総会にてご報告申し上げました通り、この度、前会長が退任されることとなりました。山下前会長には、九年間曾根まちづくり研究会の活動、発展に、多大なご尽力をいただきました。

■平成29年度活動報告

- 8月26日 /ないす曾根22号発行
- 8月26日 /曾根サマーフェスティバル2017開催

■平成30年度活動計画 【5月26日 総会、活動指針の策定】

①「夢の樹ひろば・夢の樹とおり」の活用②サマーフェスティバルの充実③光のライン構想の推進④曾根の歴史の探求⑤ないす曾根の発行⑥地域イベントの継続

平成30年5月26日(土曜日)、豊中市立中央公民館において今年度定期総会が開催されました。まず初めに、山下会長の挨拶と新入会員の紹介及び自己紹介が行われました。その後出席者と委任状の提出数により、会則に基づく定数が満たされていることが確認され、総会が始まりました。平成29年度活動報告、平成29年度会計報告、会計監査報告が行なわれ、承認されました。引き続き役員の変更と、平成30年度活動計画案、平成30年度予算案が提案され、承認されました。滞りなく会は進行し、全てのプログラムを終了しました。

前会長 **山下 優**
退任のご挨拶



この度、会長職を井田新会長に引き継ぐこととなりました。ここ数年は事業所会員の減数もあり、サマーフェスティバルへの協力、イルミネーションの維持管理、ないす曾根の発行のみに傾注することとなりました。これからは新会長のアイデアとリーダーシップで新たなページが開かれることを祈念いたします。今後とも曾根まちづくり研究会へのご理解とご協力を宜しくお願ひいたします。

祝25周年 曾根サマーフェスティバル2018

教育文化都市を掲げる豊中市は、豊中・岡町・曾根を都心ゾーンとし、中でも曾根を「文化・芸術・スポーツゾーン」と位置付けています。そして昨年の1月には待望の「豊中市立文化芸術センター」がグランドオープンしました。

新たな曾根の顔「文化芸術センター」とイルミネーション(光のライン)でつながる「夢の樹ひろば」や「夢の樹とおり」において、今年も曾根サマーフェスティバルを企画いたしました。

誰もが集えるところ活気あふれる「まち」として期待されるこの曾根において、地域住民が絆を深め活性化を図るべく毎年積み重ねられてきたこのイベントが、今年度は25回目(四半世紀)ということで記念大会と位置づけ、ゆるキャラフェスティバル・夏の甲子園100回記念イベント・沖縄イベントも企画いたしました。

第25回を迎えられることに感謝の気持ちでいっぱいです。文化、芸術、スポーツ、そして音楽あふれるまちづくりに賛同する気持ちをこめて、地域の方々、事業者、各種団体が一丸となり成功させたいと思います。

主催/曾根サマーフェスティバル2018実行委員会 実行委員長 **安家 比呂志**

25th Anniversary 日時 **2018年8月25日[土]** ※雨天決行、荒天中止
17:00~22:00
曾根サマーフェスティバル2018



■特設ステージ(夢の樹とおり) 司会/青芝フック氏

- PM 5:00~
- オープニングセレモニー
 - 豊中市立第一中学校スクールバンド部
 - 開会宣言・実行委員長挨拶

- PM 5:45~
- 長興寺子供太鼓連(華一番)
 - 南桜塚小フラダンス(みなさく子供教室)
 - ゴスペル(ハッピーデー)
 - ママさんストリートダンス(ヒップママドゥ)
 - キッズチアダンス(スマイリーズ)
 - 子どものヒップホップダンス(ファンキートリップ)

- PM 6:50~
- 700名に!ピンゴゲーム(無料)※但し空くじあり
 - ピンゴカードはお一人様一枚限り
 - ピンゴカードはPM5:30より池田泉州銀行横にて配布します。

- PM 7:45~
PM 9:30
- 民謡(山優里会)・盆踊り(大賀流社中、他)
 - ゲスト/キングレコード歌手 **南山正義さん** 囃子 **西田和希代さん** 【オリジナルソング「曾根夢の樹音頭」他】
 - 皆さんで輪になって踊りましょう!

■サブステージ(夢の樹ひろば 噴水前)

- PM 6:00~
- ジャグリング(豊中四中大道芸部)
 - ダンス(HAPPY SMILE PROJECT) ●舞踊(琉球舞踊豊中)
 - ダンス(JETストリートダンススクール)
 - 沖縄イベント ●夏の甲子園100回記念イベント
 - ゆるキャラフェスティバル(北摂地区のゆるキャラ登場!)
 - バンド(TSUNA)

※当日都合により来賓挨拶等を組み入れることがあります。
※ステージの進行上時間通り行えない場合がありますのであらかじめご了承下さい。
※車両通行止はPM5:00~PM10:00迄

編集後記 9年間まちづくり研究会を会長としてリードしていただきました山下前会長が勇退されました。後を引き継いでいただく井田会長には、初の女性会長として、感性を生かしたまちづくりに取り組んで頂けることと期待しております。今後とも、皆様のご支援とご協力を宜しくお願ひ申し上げます。